

豊庄だより



第 710 号 2022 年 6 月 2 日

入園式から 2 ヶ月が経ちました。今号と次号で 4 月から豊庄保育園で保育士として働くようになった二人のフレッシュウーマンを紹介します。※お二人に今の心境を書きいただきました。今号はさくら組担任の山下花凜（かりん）さんです。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

今年の 4 月から豊庄保育園で 1 歳児クラスのさくら組で担任をしています。子ども達と触れ合い、先輩方から教えてもらいながら色々なことを経験し学んでいます。



4 月の子どもたちの雰囲気、声かけの仕方や関わり方など、学校で勉強や実習を通して学んでいたのですが、実際に保育士として子どもたちの前に立ってみると、声かけなどうまく子どもたちと関わるのが難しく思います。登園・降園時間や給食の時間など、子どもたちひとりひとりの月齢や性格、気持ちを考えながら関わっていくことの大切さ、難しさを改めて感じました。

そして、新入園児の子どもも安心して保育園で過ごすことができるように、保護者とその子の安心できるものや仕草などの共有を行うことで、段々と慣れていく子どもの様子を見て、保護者との情報共有の大切さを改めて知ることができました。

また、5 月の連休明けにクラスリーダーを 1 週間行いました。そこでは子どもたちの様子を見守りながら、前に立ち活動を進めていくことの難しさを改めて知ることができました。

時間や子どもたちのことを考えながら進めていかなければいけないこと、全体を見て、子どもたちが安全に活動を行えるようにわかりやすい声かけを心掛けていくことなど、1 ヶ月間先輩方のリーダーをされている姿を見てきたつもりだったのですが、リーダーとして子どもたちの前に立つと上手に活動を進めていくことが難しく、先輩方がリーダーを進めるときより、子どもたちを不安そうにさせてしまっている気がしました。ですが、先輩方からアドバイスをもらいながら、子どもたちの隙間時間があまりできないようになど、少しずつながらも全体を進めることができました。



まだまだ子どもたちへの声かけの仕方や進め方などできていないことが多いですが、これからも子どもたちひとりひとりの気持ちを汲み取りながら関わっていくことを忘れずに、立派な保育士になれるよう精一杯精進していきたいと思っております。

山下さんの文章を読み、私の新採の頃を思い出しました。中学校に採用される前、かなり荒れた高校の生徒たちに関わっていました。中学校の教壇に立った最初の印象は、「かわいい」でした。しかし、1 週間もすると、話を聞かない、指示をしてもなかなか通じないの連続。子どもたち同士の関係を作り、私との信頼関係を作っていくことの大切さを考えるようになったのは、1 年生、2 年生、3 年生と担任をしながら持ち上がり、卒業させ、4 年目に新 1 年生の担任を受け持ってからでした。ファイト！

